

優秀な動物って？

by 動物奇想天ご盛り

人間の赤ちゃん和動物

最近、お年頃(?)のせいか、友人の赤ちゃん和接することが多くなりました。新米ママさんに赤ちゃんの話を知ると「下にあるものを何でも口にしてしまうの」「隅に押し込んだコードをひっぱり出して、噛んじゃうの」「予防注射のとき泣くから、おもちゃを見せるとか他のことに気をとらせながら注射してもらった」とか。ん?どこかで聞いたことのあるような……。そう、その内容は、犬を飼い始めたばかりの飼主さんが、動物病院で相談している内容とそっくりでした。注射のとき、他へ気に向けさせることは、動物病院でも行っていました。たしかに、犬の知能は人間の2~3歳児程度と言われます。「動物和人間の赤ちゃんを一緒にしないで」とお叱りを受けてしまうかもしれませんが、元々、人間の行動心理学は、動物の行動心理学から発祥し、人間を育てる教育界にも影響を与えている学問なんだそうで、動物の行動やしつけ和人間のそれらは全く切り離せられる関係ではなさそうです。今まで接することがなかった人間の赤ちゃんの行動に、動物を重ね合わせ、ふと「毎日のように見ている、あの牛や豚たちはどうなのだろう」と考えます。

動物の知能

そこで、動物の知能について調べてみました。違う種類の動物の知能を比べるのに、脳化指数(全体重に占める脳の重さの割合)というものがあり、その脳化指数が高いほど、知能が高いということになるそうです。動物たちの脳化指数は下のようです。(ヒトを10.0として表す場合もあるそうです。)

種類	脳化指数	種類	脳化指数
ヒト	0.86	ネコ	0.12
イルカ	0.64	スズメ	0.12
チンパンジー	0.30	ウマ	0.10
ゾウ	0.22	ウシ	0.06
カラス	0.16	ブタ	0.05
イヌ	0.14	ニワトリ	0.03

(参考; Wikipedia)

この脳化指数だけで見ると、やはり一般的に賢いと言われている動物の脳化指数が高くなってい

て、牛や豚はそれほど高くありませんでした。



豚や牛だって負けないもんっ！



でも、牛や豚は、人間にはとてもできないようなことができちゃいます。

豚の鼻はとても器用で、嗅覚も優れているので、鼻で土をほじってにおいをかいで餌を探せます。この嗅覚を利用して、トリュフを探させていたこともあるようです。

牛はとっても力持ちで、人間の力の代わりになって農作業や運搬の仕事をしてくれました（「役牛」と呼ばれました）。また、植物を肉や乳にかえてくれます。

脳化指数だけで見ると、人間がとっても優れているように感じますが、決して人間だけが優れているのではなく、それぞれの動物たちが自分たちの得意分野、特徴を生かして、地球上で共存しているのだなと感じます。